

第37週の発生動向(2006/9/11~2006/9/17)

1. 伝染性紅斑については、むつ保健所管内で第35週から、**警報**が継続しています。
2. ヘルパンギーナについては、むつ保健所管内で第28週から、**警報**が継続しています。

第37週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ															0
(60) 咽頭結膜熱			1	0.11	3	0.33							4	0.10	-6
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7	0.78	1	0.11	4	0.44			1	0.17	2	0.50	15	0.36	-1
(62) 感染性胃腸炎	12	1.33	9	1.00	1	0.11	5	1.00	14	2.33	7	1.75	48	1.14	-3
(63) 水痘	10	1.11	6	0.67	1	0.11	3	0.60	3	0.50	1	0.25	24	0.57	-3
(64) 手足口病	10	1.11	8	0.89	2	0.22	1	0.20					21	0.50	-9
(65) 伝染性紅斑					4	0.44	1	0.20	2	0.33	4	1.00	11	0.26	2
(66) 突発性発しん	5	0.56	2	0.22	7	0.78	1	0.20	7	1.17	3	0.75	25	0.60	-8
(67) 百日咳															-1
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ	9	1.00	8	0.89	4	0.44			3	0.50	15	3.75	39	0.93	-20
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	6	0.67	17	1.89	10	1.11	3	0.60	9	1.50	6	1.50	51	1.21	21
(73) 急性出血性結膜炎															0
(74) 流行性角結膜炎	1	0.50	12	4.00			2	2.00					15	1.36	-7
(59) RSウイルス感染症			3	0.33									3	0.27	3
(82) マイコプラズマ肺炎											1	1.00	1	0.17	-5

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	14	9	5	2	1
弘前	15	9	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (18年計には、今回届出された人数を含む)

(14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患) : 県内4保健所管内で報告されています。

青森保健所: 1人, 八戸保健所: 3人, むつ保健所: 2人, 上十三保健所: 1人

(18年計46人)

感染症の窓

急性灰白髄炎(ポリオ、小児麻痺)

世界保健機関(WHO)は、西暦2000年までに世界からポリオを根絶する計画をたて、ワクチン開発およびその定期接種により、多くの国で患者は激減しました。しかし、**エチオピアでは2004年12月以降に37名のポリオ患者が報告されています。また、ソマリアでも昨年(2005年)ポリオの流行が発生しました。現在までに確定した患者は215名で、ソマリアの19地域のうち14地域で流行しています。**エチオピアの Somali およびソマリアの北部/中央部の国境地帯がハイリスク地域となっています(WHO 2006/09/08付)。

日本国内では、過去5年間、報告はありません。

急性灰白髄炎とは

ポリオウイルスの感染による急性弛緩性麻痺を主症状とする急性運動中枢神経感染症です。感染症法では二類に分類されています。

感染予防

ポリオが未だ存在するアフリカ、南・東アジアなどへの旅行者はワクチンを接種して出かけることが望めます。

関連ページ: 海外渡航者のための感染症 <http://www.forth.go.jp/>

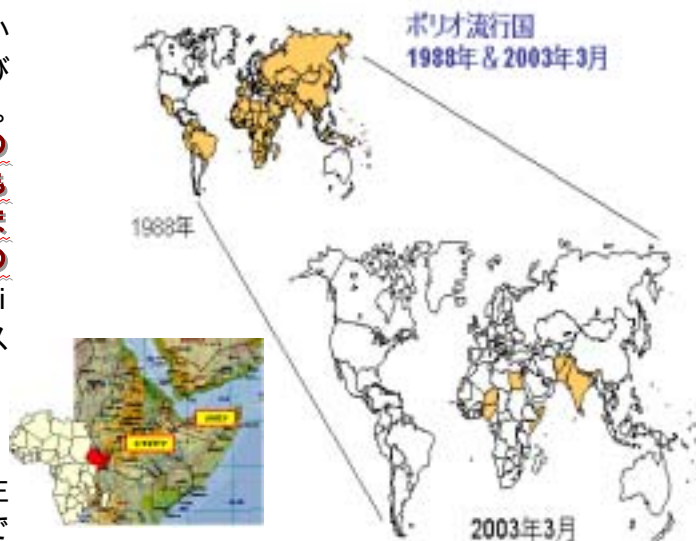


図 世界分布(1988年 2003年) WHO 資料